

「乳用牛ベストパフォーマンス実現会議」における 具体的な検討の視点について（案）

1 頭数の維持・拡大について

（1）乳用後継牛の確保

- ① どのようにして優良な乳用牛の性判別精液・受精卵を活用すべきか。
- ② どのようにして乳用後継牛の確保を図りながら和牛精液・受精卵の利用を図るべきか（空いた腹を利用した計画的な和子牛生産）。
- ③ どうすれば受胎率（性判別精液を含む）が向上するのか。（→2（2）関連）
- ④ 優良な乳用受精卵の確保をするには、どうすればいいのか。（→2（4）関連）

（2）分娩事故や子牛の事故率の低減

- ① 妊娠牛の早流産や難産などの分娩事故を減らすにはどうすればいいのか。
- ② どのようにして妊娠牛（特に乾乳期）の適切な栄養管理を図るべきか（ボディコンディションの確保等）。
- ③ 出生直後の子牛の事故率を減らすには、どのような飼養管理を行うべきなのか。
- ④ 子牛に初乳を給与する際には、どのようなことに留意すべきか。
- ⑤ 子牛の衛生管理を向上させるには、どのようなことに取り組むべきか。

（3）経産牛の供用期間の延長

- ① 供用期間が短くなっているのは、乳用牛の高能力化や大型化、飼養形態の変化が原因ではないか。
- ② 長命連産を達成させるためには、ほどほどの乳量を搾った方がいいと言われているが、本当か（乳量が多い牛ほど供用期間が短くなっているのではないか）。
- ③ 長命連産型の牛づくり（牛群改良）をするには、どのようなことに取り組むべきなのか。（→2（4）関連）

- ④ 乳熱や繁殖障害などの周産期病の発生を防止するにはどうすればいいのか。
- ⑤ 乳器障害や肢蹄故障を防止するにはどうすればいいのか。
- ⑥ 乳房炎の発生を防止するには、どのような飼養管理を行うべきか。
- ⑦ 細菌性乳房炎の発生を抑制するにはどうすればいいのか。
- ⑧ 過搾乳等を防止するための搾乳作業や搾乳機器のメンテナンスのポイントは何か。
- ⑨ 産次を重ねることによる体細胞数の増加を抑制する方法はあるのか。

2 1頭当たり乳量の増加について

(1) 暑熱対策の徹底

- ① 夏場の受胎率を高めるにはどうすればいいのか（夏場の人工授精は避けた方がいいのか）。（→（2）関連）
- ② 夏場の乳脂肪率を低下させないためには、どのような飼料給与を行うべきなのか。（→（3）関連）
- ③ 夏場に飼料の食い込みが悪くなるので、どのような取組を行えば改善するのか。（→（3）関連）
- ④ 暑熱対策として、牛舎構造や送風機・細霧器などの設置のポイントは何か。

(2) 繁殖成績の向上

- ① 近年、牛の発情の兆候が弱まっていると考えられるが、その理由は何か。どのようにして発情発見率を高めることができるのか。
- ② 乳量の大幅な増加が繁殖成績を低下させているのではないか。
- ③ 発情発見後の授精適期はいつなのか。
- ④ 人工授精を行う場合に、どのようなことに留意すべきなのか。
- ⑤ 性判別精液の受胎率が低いが、どうすればこれを向上させることができるのか。
- ⑥ 産次が伸びるほど受胎率が低下するが、どのようにして高めることができるのか。
- ⑦ 無発情牛や繁殖障害牛を早期かつ的確に発見するにはどうすればいいのか。また、これらの発生を防ぐには、どのような飼養管理を行うべきなのか。

- ⑧ 乳用牛にとっての適切な分娩間隔は何日か。
- ⑨ 空胎日数が長い牛をどのようにして判断し、どのような対応をしたらいいのか。

(3) 飼料給与の改善

- ① 乳用牛に対する適切な栄養水準を確保するには、どのようなことに気をつければいいのか。
- ② 乳量を維持しながら濃厚飼料の給与量を抑えるには、どうすればいいのか。
- ③ 多頭飼育や TMR の給与が、濃厚飼料の多給につながっているのではないか（泌乳ステージや能力に応じた飼料給与の重要性）。
- ④ 大型化・高能力化が進んでいる乳用牛に対して濃厚飼料の給与量を減らすと疾病等の発生が心配。
- ⑤ 濃厚飼料の代替として、どのような飼料を利活用すべきなのか。

(4) 乳牛の改良（遺伝的能力の向上）

- ① 精液は、国産・輸入にかかわらず、本当に能力の優れた種雄牛が選択されているのか。
- ② 体型を重視するあまり、結果的に泌乳能力の劣った種雄牛を選定しているとの指摘は本当か。
- ③ 繁殖形質（娘牛受胎率・空胎日数）に関する遺伝率は低いので、交配する種雄牛の能力として配慮する必要はないのではないか。
- ④ 総合指数（NTP）は様々な能力の総合評価値であるため、改良目的に合った種雄牛を選定することはできないのではないか。
- ⑤ 泌乳持続性を高めると乳量は減るのではないか（泌乳持続性のメリットは何か）。